西之表市史編さんだより

第1号

『市史編さん事業』スタートしています

本市の自然、歴史、民俗、行政史等をまとめた『西之表市史』の編さん事業が、令和５年度の刊行を目指し、令和元年度から始まりました。

基本方針

① 本市の歴史や文化、自然等を明らかにすることで現在を見つめ直し、未来のまちづくりや教育、市民生活に役立てることを目指す。
② 本市の歴史文化や文化財、自然に対する市民の誇りと愛着を深め、伝統文化や民俗芸能の保存保護に対する関心を高めることを目指す。
③ 本市の基礎資料として活用されるよう、最新の研究成果を反映させ、学術的に正確で高い水準のものを目指す。
④ 市民に親しまれ、活用される市史となるように、編さん段階から市民の参画や情報提供の機会創出に努め、関係団体等との連携・協力を図る。

市史編さんの体制

○市史編さん組織体制○

組織の名称	内容
編さん委員会	市史編さん体制のトップに位置付けられ、編さんに関する基本的な考え方を決定する。
編集委員会	基本方針に基づき、専門的な立場から資料収集及び調査研究の方法を審議し、市史編さんに必要な執筆、編集及び監修を行う。
専門部会	市史編さんのための調査、原稿執筆等を円滑に進めていくため、８つの部会を設置する。
調査協力員	協力をいただく市民や市民以外の様々な方々。
事務局	市史編さんに係る事務を行う。

○８つの専門部会を設置しています○

担当する分野ごとに「自然」「先史」「古代」「中世」「近世」「近現代」「民俗」「校区史」部会を設置し、それぞれ調査を行っています。

調査の詳細についてはホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

市史編集委員会委員をご紹介します

職名	氏名	分野	備考
委員長	徳永　和喜	近世	西郷南洲顕彰館館長
副委員長	鮫嶋　安豊	校区史	西之表市立図書館長
委員	寺田　仁志	自然	元県立博物館主任学芸主事
	堂込　秀人	先史	元県立埋蔵文化財センター所長
	永山　修一	古代	ラ・サール高校教諭
	屋良　健一郎	中世	名桜大学上級准教授
	奥村　学	近現代	ひとつ葉の会会長
	下野　敏見	民俗	元鹿児島大学教授

徳永委員長

種子島への鉄砲伝来は、鉄砲が伝わったという単純な歴史ではなく、鉄砲が製作された極度に高い次元の歴史事象なのです。中世･近世は潮流と風力の帆船時代、種子島は堺･京都文化に直結し、また、中国･西洋文化の導入口でもあり、高度な種子島文化の存在と形成がみられます。市史編さんで新たな歴史が拓かれます。
乞うご期待です。

鮫嶋副委員長

西之表市史編さんは長年の悲願であっただけに、着手できたことは望外の喜びです。これまで営々と郷土史を紡いできた先学に思いを馳せる時、重大な責務を痛感する次第であります。末永く活用される市史の刊行を目指したいと思います。

R１年度 活動の様子

土器に付着した動植物の痕跡を調べました。

湊川のメヒルギ群落を調査しました。

遺跡がどのような場所にあるのか確認しました。

市民を対象とした講演会を行いました。

校区史部会も調査を行っています

１２校区全ての校区史を作成します。

校区名	担当者
部会長	鮫嶋 安豊
榕城	尾形 公雄・楢原 英伸 村川 元子
上西	馬場 信一
下西	石原 仁
国上	長野 勝
伊関	榎本 澄徳
安納・安城	小山田 一郎
現和	石園 一郎
立山	小倉 良光
中割	奈尾 正友
古田	窪田 良二
住吉	上妻 文乃

国上担当：長野　勝

浦田小島の調査

校区史編さん委員会（河本幸男会長他 6 名）を設け、国上郷土誌（昭和 60 年刊行）に記載されている史跡・場所等を再確認したり、資料収集やこれまで未記載の史跡等の調査をしたりして、国上の自然や文化・歴史等の信ぴょう性を探りながら、皆さんに親しまれる校区史ができることを願って取り組んでいます。

ご協力よろしくお願いします。

現和担当：石園　一郎

現和上之町 榎元家系図調査

郷土西之表市には、市民みんなが誇れる自然や文化、歴史があります。『現和郷土誌』（昭和 43 年刊）を手がかりに、皆様と現地を調べたり、古い資料を集めたりして、現和の良さを再発見できたらと願っています。ご指導、ご助言をよろしくお願いします。

西之表市の古資料、集めています！

西之表市の街並みや行事、なにげない暮らしのひとコマを映した明治・大正・昭和の写真や日記、手紙など古い資料を集めています。ご家庭に眠っていましたら、ぜひご連絡を！！

故和田実様のご家族 様　提供

黒糖の積出
昭和 27 年頃
樽は通称 50 斤樽

下村タミ子 様　提供

昭和 27, 8 年頃
春休み（芋植え休み）に
馬毛島の小屋の前にて
榕小の先生方と子供達

池亀美生子 様　提供

明治元年
長崎出島にて

長野義秋 様　提供

昭和 30 年頃
湊神社にて

～　資料の提供　ありがとうございました　～

コラム
歴史に学ぶ

～　明治時代に種子島で発生した感染症「天然痘」　～

西之表市立図書館長　鮫嶋　安豊

今日、私たちは見えぬ「新型コロナ」ウィルスと日夜戦っているが、明治時代の人々も感染症「天然痘」に戦々恐々と怯えながら戦っていた。明治時代、西洋医学が流入し始めたとはいえ、庶民生活は未だ漢方療法が根強く、目に見えない感染症には神仏頼みの一面があった。

ところで、明治時代、甑島から種子島への集団移住は鹿児島県の一大事業で、公費による渡航であったが、中には自費で渡航した人々もおり、その中に「天然痘」が発生した。熊毛支庁（当時・郡役所）は甑島住民の移住に先立ち、種痘を実施していたが、移住者が１３８０名と多く、漏れがあったのか？

中種子町坂井に感染者が現れ、たちまち南種子町平山へと拡散、感染者10数人中６人が即日死亡という大惨事となる。3ケ月後、ついに西之表市立山（御牧）住人が発症する。御牧集落は明治19年甑島からの入植集落で、僅か9戸、住宅構造が一棟茅葺長屋造りであったことから、長屋の住人全員に蔓延する。「愛児は朝に、慈母は夕に一家４人斃れ、親子枕を並べて‥」と悲惨な様子が綴られている。ウイルスの潜伏期間（10日～14日）中、患者は横穴（疱瘡穴）に完全隔離され、近隣（立山本村か？）の3、４０軒の家族は、原野に避難させられた。小牧野でも「患者は横穴に隔離、食事は穴の前に、接触は厳に避けた」との記録がある。種子島の天然痘死亡者は２２人、その他症死亡者２７名、合計４９名の感染症によるパンデミックであった。今日、疱瘡穴、疱瘡墓と呼ばれる場所が島内各地にある。立山御牧の疱瘡墓を立山住人武田宗吉さん（８２歳）と小倉良光さん（７７歳）に現地案内していただいた。小高い丘は灌木に覆われていたが、落ち葉が堆積した墓地らしい平坦な場所が発見された。春には薄いピンクのツツジが咲き、遠くからでも確認できるという。また、島内には「岩穴」と呼ばれるサウナ風呂の原型のような横穴もあるが、これらも流行病（梅毒・淋病など）の隔離場所にもなった。ぜひ、機会をみて、現地を訪ね、昔も変わらぬ人とウィルスとの関係（ウィズ・コロナ）を学んで欲しい。

立山御牧の疱瘡墓

先史部会
報 告

市史編纂に伴って、先史部会の執筆担当者の先生方と、西之表市をはじめとして中種子町の資料を調査しました。遺跡は昔の人が生活した痕跡です。

その人たちがどんな土器や石器や道具で、どのように暮らしていたか、具体的な「物」の情報を最大限に生かして、現在までの繋がりが描ければと考えています。

今回は２本の論文を『鹿児島考古』第 50 号に掲載していただくこととなりました。「種子島採集遺物の資料紹介①」では、縄文時代草創期から縄文時代中期までの土器を紹介し、島内の遺跡の有り様を考えました。同志社大学の水ノ江先生は「九州の緒締形大珠」で、現和巣遺跡の日本列島最南端の大珠とされる新潟県糸魚川産の翡翠製の大珠が、より大型の鰹節形大珠が種子島に運ばれるまでに、破損し再加工されたものであることを明らかにしました。九州の５例の出土例からも縄文時代後期のものであるとされました。今後も、何回かに分けて関連科学等の分野の専門誌を含めて、成果を紹介することとしたいと考えています。

ヒスイ製大珠　現和巣遺跡
（種子島開発総合センター）

＜先史部会長：堂込　秀人＞

令和２年６月 25 日発行　第１号　［発行］西之表市［編集］企画課歴史文化活用係
〒891-3193　西之表市西之表 7612 番地　電話 0997-22-1111（内 211）FAX 0997-22-0295